

絵本の朗読 天国に届け

震災 14 年
紡ぐ

南相馬市 梶田千賀子さん



海に向かって絵本の読み聞かせをする梶田さん。海に問いかけるようにページをめくった—南相馬市・北泉海岸

子どもたち思い海へ

語り継ぐ決意

周辺の海辺に足を運び、絵本を読むようになった。今年6日、梶田さん夫妻は青空が広がる南相馬市の北泉海岸を訪れた。「てはおひさしー。おはなしかいの はじまり はじまりー」。梶田さんは普段の読み聞かせ会で行っているお決まりの歌を歌い、そつと絵本を読み始めた。毎回読む絵本はさまざまだが、今回は「きぼう」や「じぶんのきもち」などの絵本を選んだ。

「みんなはどうかなあ」。優しい表情を浮かべ、海に問いかけるようにページを

前に海辺を訪れ、澄んだ声を響かせた。毎日のように暗いニュースが流れた。梶田さんは2週間ほどで避難先から戻ったが、震災から3カ月後、心筋梗塞になり入院。そこで「また来るよ」と手を振った。

「どの絵本、みても、きれいだな」。文庫の名前には童謡チューリップのように、子どもたちと分け隔てなく接したいとの思いを込めた。南相馬市では震災関連死521人を含む1157人が亡くなり、子どもも犠牲になった。「私にできることは本を読むこと」。退院後、家にちゅうりっぷ文庫として自宅を開き、読み聞かせを再開。年に1度は夫鉄男さん(71)と共に南相馬市

病室で見た夢

子どもたちと遠足に行くなど楽しい日々を送っていたが、震災と東京電力福島第1原発事故で環境が一変。子どもたちも梶田さんも避

南相馬市原町区の梶田千賀子さん(73)は東日本大震災で亡くなった子どもたちを思い、海に向かって絵本の読み聞かせを続けている。「絵本を読んでほしい」と思っている子どもがいるかもしれない」という思いからだ。今年も節目の日を

「ちゅうりっぷ文庫」という名前には梶田さんのどんな思いが込められていますか。

梶田さんが震災後「ちゅうりっぷ文庫」を再開させたのはどういう思いからですか。

みなさんは「震災を語り継ぐ」ことにはどんな意義があると考えますか。